

- 岩崎正男(北海)岡八三(江)
- 山久保博文(網南)高橋定吉(斜里)赤降勢也(沼田)三宅武(滝川)山谷巖(千歳)高野昭夫(岩手)(以上推薦入学者)
- 川上基裕(釧路)上野忠男(札西)
- 佐野進一(釧路)田村京子(札香)
- 蘭葛西明(長万部)飯田広(寿都)多羅尾徳長(苫東)山本一也(夕北)三浦訓(舞井江)金義弘(稚内)新谷常雄(岩西)塚下幸三(札北)山口清(江別)後藤守三(羽幌)佐藤正夫(三笠)神垣安夫(帯広)藤井政吉(沼田)柴田繁夫(浦河)栗石治朗(室山)工藤冠一(留萌)深尾裕文(美南)吉田行利(目形)北条好雄(苫東)柳谷広吉(樽干)久須美洋(稚内)藤本茂男(美東)山崎正(樽北)照根花未男(滝工)近久浩(静内)橋本隆司(苫東)酒井晋博(旭西)松田有留(寿都)佐々木正夫(北海)三上宏一(岩西)神守一(苫西)西山俊明(岩東)宮井兼吾(滝川)脇田一(樽水産)三沢敏博(美東)日井健治(樽水産)山口一郎(樽北)松野米男(同)中村浩
- 中島孝友(札北)藤野朝康(江)
- 木口哲夫(岩城)相馬昭美(青森)高橋空之(秋田)回山哲夫(三笠)諸戸昭三(札東)宇野正春(樽太)岡本逸石(静岡)
- 石崎哲弘(岩東)目黒三郎(福島)谷村邦弘(夕工)高浪洋一(札伏見)高浪邦江(岩高女)菊池昌三(札南)菅野治(札工定)
- 中村隆(岩内)津田隆(余市)鈴木藤雄(室清水)堤賢栄(秋田)荒川栄子(札西定)高橋(男)福地坂無猛(深東)金子廣夫(札星園)後藤銀次郎(天王経)菅野恒三郎(秋田)白崎元治(北海)伊藤亮一(札北)菅原弘(札西)石井高(東京)浅野精史(札星園)長谷川芳男(千葉)栗佐古光臣(旭工)坂東才三子(札高女)阿部宏明(札経済)高塚秀法(美工)古川登(樽蔵)西東壮(札北)小林久勝(同)寺沢実(札南)太田勝宣(青森)小泉誠一(苫東)水間沢(札星園)水野健次郎(中標津)岸貫(江別)青年)末田英昭(樽干)柴山豊明(旭商)加藤太一(宮

新郷土読本



人物篇 (58)

第二回知事選挙の二十六年四月、革新と保守一田中と黒沢西蔵とが、四つに組んでの一騎打ち。告示の三日、両候補は第一声を、ともにゆかりの地、札幌山鼻であげた。「山鼻管舎のみなさま、四年まゝ、ここに住んでいました田中でございます」「私はかつて山鼻で牛乳屋をやっておりました黒沢であります」「……片や三十九歳の男さかり、片や退任無効、六十五歳の老政客。最終戦は両派運動員のドロ試合。『君田中、チンチン田中は』とやれば、一方は「黒沢のあつちる牛乳な分

十一万票、黒沢七十七万票。春雨にぬれる開票日の夕一、田中は再び万感に包まれた。

× ×

「弱冠」田中に軍配上る

「老雄」黒沢との一騎打ち



第二回知事選挙の田中(上)黒沢(下)の西條浦上二十六年四月

長官知事の巻

現代一編三代選知事 田中敏文

飲むも 第二代知事として赤レンガ入りした彼は、組に派手なシマが入った新調のダブル。胸には白い羽根が輝くばかり。初代のときのくたびれたホムズパンとは格段のおが。二十一貫の巨体は四年間の経験がモノをいう自信でふくらんでいたが、また、それだけに風当りも強くなってきた。

寺やってきたのが国の開発局設置問題。当選のお礼参りもそこそこに東京へ。「本道開発の二重行政だ」「再選へのイヤがらせだ」と汗みたらで反対

激闘。が、結局は負け。彼は二カいサカキを手した。そのサカキの底には土木部長池田一男のシタリ顔が浮んで消えた。池田は官選最盛時代からの古参。一期はソツボを向きながらも田中に仕えたが、腹には一物あるくせもの。この問題では大いに暗躍、開発局設置とものにどうりと戦って初代局長に納



池田一男氏



大学合格者

小樽商大

(一一〇名)

▽普通課程

工藤康夫(江別)望月伸之(岩西)
津田信吾(深東)小室秀喜(札北)
佐々木茂(山形)志波史郎(函東)
鈴木皓一(同)小津尾正明(旭商)
植原健治(伊達)奥山省一(札東)
峰東(志内)寺尾忠明(札西)
長浜多久藏(網南)河田克彦(標
茶)神田明彦(十別)小林憲二
(梅緑)曾根将(札南)朝倉宏治
(梅緑)上野昭吾(同)笠井寿
(岩東)

浜地博一(岩東)高山和則(岩内)
和島英信(梅緑)堀川一雄(美東)
藤田弘雄(函中部)唯山勝利(旭
北)小林貞美(北相)佐藤真(赤
平)西田利弘(三笠)藤田弘志
(俱知安)五十嵐敬典(同)冰見
修一(同)大橋達夫(同)依誠
(梅緑)加藤晴美(同)中村英司
(同)北川正信(同)細谷明男
(伊達)樋田浴(砂北)岩佐竹治
(岩東)

伊藤博幸(室栄)辰田順治(同)
渡辺顕(函中)松田修(旭東)千
田遼一(同)大岩勉(同)黒崎
弘(同)土川美勝(旭東)岩崎
陽三(樽千秋)加藤一幸(同)
小野重司(同)加藤英行(同)
数井克彦(札東)名西徹(同)
久保田勲(同)斎藤美治(同)
奥村信樹(旭西)笹島康平
(留萌)木間利明(札東)中田
明夫(岩西)中島宏居(釧湖)
安田繁郎(網南)佐藤寛(羽
幌)松宮正幸(京都)中野宏美
(函西)塚田裕(札南)藤田三雄
(同)原橋進(同)鈴木重夫(同)
斎藤謙一(同)西尾捷三(同)高
柳秀昭(樽湖)竹内勝(同)
加藤恵一(同)大野晴史(同)
原綱一(同)谷口勲(同)丹野
菊司(同)馬場浩(同)宮下雄
一(同)合口光時(同)遠藤正
路(同)川口祐一(同)高桑純
介(同)出口脩(札光星)石垣
仁司(樽千秋)矢吹成夫(同)本
山直也(樽湖)宮下雅夫(樽千
秋)山田哲(名寄)山崎弘策(札
北)東中政明(同)佐藤修(同)
梅本嘉藤(同)札木光洋(同)鈴
木隆之(同)池田征市(同)栗林
海(樽湖)奥山茂(同)道前茂
(梅緑)斎藤一郎(同)佐々木
裕(札北)神田隆彦(北海)高山
裕(札北)川久保直雅(樽湖)
山本隆彦(岩東)高橋正也(伊達)
藤原(札北)藤田(赤平)
藤田(岩東)山本隆彦(同)

札幌短大

▽第一部商業科(九七名)

富樫忠雄(同)平元信彦(同)館
田勝久(同)山田清美(同)林英
一(同)幸前肇子(同)川中輝二
(同)梅田勝彦(同)熊谷正雄(能
代)小田哲也(東山)中山広太郎
(余市)小田康(同)三嶋栄作(札
南)伊藤賢(釧江南)伊藤謙介(諏
訪)荒沢拓司(東京)阿部忠明(苦
東)監物貞(桐生)高橋作倫(新
潟三栄)大木満(赤平)小林清柏
(崎)斎藤宏(仙台)反川博(塩釜)
高橋紀雄(熊谷)新居克英(足利)
田島隆三(東京)大橋正寛(滝川)
田宮康一(秋田)斎藤邑説(静岡)
笹部菊夫(東京)大野治朗(川崎)
菅原大至(栃木)大竹丈夫(東京)
有村隼人(栃木)竹村一彦(静岡)
吉原守雄(東京)岩沢昌世(千葉)
酒原幹夫(広島)中島清明(茨城)
重松政男(函中部)杉山正一郎(中
大)田中義浩(栃木)花田淳一郎
(島根)高木見一(函中部)川瀬
至弘(東京)太田精八(同)穴戸
福生(同)大久保良雄(同)相田
徹明(同)
安藤彰英(旭北)平野吉彦(帯三
条)伊藤金太郎(愛知)服部雄一
(宮城)安居進(大阪)坂本盛男
(秩父)五条隆司(旭西)松山宏
道(札東)若松西三(札北)赤谷

良士(山形)関健雄(秋田)浜出
満彦(樽湖)東口忠功(函西)
尾上昇(兵庫)高柳久仁夫(東
京)木村聡(岩別)高畑晃(茨
城)横田好弘(中横津)小関公望
(大分)滝澄(釧湖)狩野政夫
(群馬)二宮賢一郎(札東)佐藤
充弘(岐阜)田中益(岩馬)堀沢
良寛(釧江南)佐々木祥一(函西)
井口宏(札西)持丸周一郎(群馬)
諸田毅一郎(東京)萩原裕孝(東
京)清水賢吉(新潟)秋元敏(旭
東定)小林岑夫(俱知安)熱田和
美(千葉)佐藤孝昭(岩手)稲場
重雄(群馬)
▽教職課程
小山正芳(滝川)吉田民樹(岩東)
柏谷宏男(同)北村茂徳(塩釜)長
南嘉昭(同)矢部勝昌(旭西)田
中雄一(月形)伊藤喬(苦東)小
笠原真一(岩東)金森憲司(樽千秋)
真鍋澄一(旭東)増岡真一郎(室
窪)塚本善二(千葉)米野正広(美
濃)忌部邦夫(東京)墨田川)辛島
淳平(大分)吉沢安通(長野)
尾代東)志利和彦(埼玉)浦和)酒
井章有(東京)加藤宏(赤平)
佐野亮介(樽湖)
田川政夫(千葉)田中敏士(札
東)水谷端(栄光)

岩崎正男(北海)岡ハルミ(粟
山)久保博文(網南)高橋定弘
(斜里)水峰勢也(沼田)三宅武
(滝川)山谷藏(千歳)吉野昭夫
(岩東)(以上推薦入学者)
川上正裕(釧湖)上野忠男(札西)
佐野雄二(釧商)田村京子(札香
蘭)葛西明(長万部)飯田広(寿
都)多羅尾徳長(苦東)山本一也
(夕北)三浦訓(奔井江)金義弘
(稚内)新谷常雄(岩西)垣下幸
三(札北)山口清(江別)後藤守
(羽幌)佐藤正夫(三笠)神垣安
夫(帯柏)藤井政吉(沼田)柴田
繁夫(浦河)栗石治朗(室山)工
藤冠一(留萌)深尾裕文(美南)
吉田行利(月形)北条好雄(岩東)
柳谷広吉(樽千)久須美洋(稚内)
藤本茂男(美東)山崎正(樽北
照)浪花末男(滝工)近久浩(静
内)橋本隆司(苦東)酒井晋博(旭
西)松田晋吉(寿都)佐々木正夫(北
海)三上圭一(岩西)神守一(苦
西)西山俊明(岩東)宮井兼吉(滝
川)藤田一(樽水産)三沢武博(美
東)日井健治(樽水産)山口一郎
(樽水産)松野野男(同)中村浩

(函中)堀田彬夫(樽湖)渡辺
敏彦(樽北照)高桑正明(美東)
和泉毅(札商)松山重保(砂南)
真田隆之(三笠)上田実(樽緑)
寺地光男(帯柏)米沢留雄(釧
江)菅田政志(士別)遠藤敬雄(江
部)岩崎勝彌(栗山)今井勝
(岩東)池田健一(札光星)伊藤
守夫(美工)菅野伸也(三笠)原
田秀彦(留萌)小川正美(樽北照)
大場正夫(余市)滝沢俊夫(岩手)
金野隆(札西)中村健三(苦東)
西田一(岩別)村田誠也(室栄)
木下良三(樽枝)西谷正男(余市)
板東茂(北海)桃山光雄(枝幸)
小林英和(樽湖)水門博雄(初
山別)山口哲夫(樽湖)吉村八郎
(新潟)鶴丸隆(旭東)村上元
(岩別)木谷勝利(士別)片岸勝
己(留萌)若界豊(樽北照)斎藤
幸市(札星園)竹之内穂(天塩)
渡合尚美(札北)高橋治男(函西)
伊藤明(札工)石黒吉興(同)佐
生明(樽枝)穂刈尊(札南)鎌田
真次(札西)
▽第二部商業科(一三三三名)
井上健(伊達)浦仕直(風連)大
石徳男(樽別)小倉金郎(鹿島)
菊池友男(根室)楠木達(大分)黒
木幸子(北見)近藤重明(同)
斎藤健次(樽茶)香浪光雄(夕

工)白根喜吉(樽千)鈴木博(樽
茶)能登平治(羽幌)東光夫(砂
北)浦口孝雄(札光星)藤田安(同)
牧野義雄(室栄)松田俊一(旭東)
村上政之進(木古内)森澤一(赤
平)吉村耕一(岩東)吉田徳子(札
北星)島幸光(北見北)
(以上推薦入学者)
丹野茂樹(釧湖)米沢隆一郎(八
雲)吉村徳良(旭商)相馬義雄
(東瀬)瀬川俊明(月形)森
山信一(札南)山口義治(札商)
鎌田吉悦(樽北照)毛利和資(樽
湖)荒川暎久(江別)小松哲夫
(埼玉)山田幸治(岩馬)松崎八
郎(砂北)中田勝次(岩東)太田
宏(室商)松本健蔵(月形)室元
正朗(函山工)小野晃(樽北照)
大沢浩(東京)小坂博敏(俱知
安)宮西純三(札光星)古川大作
(美幌)大槻健八(琴似)橋口義
則(函商)谷口保雄(札岩北)今
丈次(幌別)木村潤佑(岩手)藤
井隆一(同)藤野謙次郎(俱知
安)平尾修一(月形)今中利行
(札光星中)加藤幸治(秋田)西
川幸治(札東)島田利春(赤平)
諏訪忠元(大樹)中館正幸(札光
星)倉田勝治(樽湖)今野幸一
(美工)細馬昭雄(広島)立石
一夫(旭上)山田重子(札北星)
竹野隆二(恵庭)石原一郎(札岩
北)道徳三喜雄(野幌)大島征
留(樽北照)大形光男(札南定)
▽英文科(一九名)
有田マリ子(札北)伊藤稔(野
幌)会田榛(樽緑)北野喜八郎
(樽千)森谷晴毅(北見北)藤
本精一(樽千)目黒俊明(樽湖)
岡崎世一(上川)鈴木順治(美東)
水田光男(一巳)野本武(帯三)
向井武夫(月形)樋口進(夕工)
榊原武(由仁)大久保凱明(札南)
佐野百合子(同)林弘子(樽及)葉
中島孝友(札北)萩野朝康(江差)
木口哲夫(宮城)相馬昭美(青
森)高橋宏之(秋田)向山哲夫
(三笠)諸戸昭三(札東)宇野
正春(樽太)岡本道石(静岡)
石崎哲弘(岩東)目黒三郎(福
島)谷村邦弘(夕工)高浪洋一
(札伏見)高浪邦江(岩高女)菊
池昌三(札南)菅野治(札工定)
中村松(岩内)津田裕(余市)鈴
木藤雄(室清水)堤喜栄(秋田)
荒川栄子(札西定)高橋(勢)福
島(坂無)深東)金子謙夫
(札星園)後藤銀次郎(天王)経
営)藤原恒三郎(秋田)白崎元治
(北海)伊藤亮二(札岩北)菅原
弘(札商)石井喬(東京)浅野
精史(札星園)長谷川芳男(千葉
県)佐古光臣(旭上)坂東イ子
(札高女)阿部宏明(札岩商)高
塚秀法(美工)古川登(樽湖)
西東壮(札岩北)小林久勝(同)
寺沢実(札南)太田勝宣(青森)
小泉誠一(苦東)水間次(札星
園)水野健次郎(中瀬)岸貴
(江別)青年)末田英昭(樽千)
柴山豊明(旭商)加藤太一(宮

第一類小学
菅野昌勝(古内)井上
東)落合修
東)川道隆
平(函東)
子(函中)
智子(函中)
々木一晃(東)
東)佐藤満
高津戸
士(同)弦
(函商)中
谷川幸彦(函西)
広瀬良治(函
原則子(函
本節子(同
山崎裕(函
安)山本進
西)山田英
(函中)与
◇一類中学
浅利俊秀(高橋世子(八増田進(八谷佳代(函大井輝男(函中)小郎(函中)◇社会(九沢之則(植村茂樹(末子(同)井郁子(函野弘文(函◇数学(六梅川和代(木村弘(函首藤美(△理科(八目沼紀夫(新田俊明(津野伸夫(松田秀雄(△音楽(中村一仁(△美術(内)字野

小樽

観光協

としてとりあげられた事項は小樽駅前観光案内所の設置と、従来場当りのなりがちであった観光事業に計画性をもたせるため、観光五カ年計画の作成、明年開催の北海道博の準備などで、他は前年度にひきつづいた▽小樽水族館の設立、運営の円滑化▽会員の増加▽統一的な観光宣伝の積極化▽ニセコ道立、支笏洞爺国立公園の拡大運動▽定山溪道路の完成、天狗山観光道路、松山道遺跡の整備、天狗山頂、旭展望台に観光施設の設備促進などの継続事業となっている。

の第一陣十二隻が十七日午後岩内から出漁した。日本海のマス流し網は過去三年間試験操業を行ってきたが大体企業的に有望な見通しがついたためとしかからは道の特殊採捕許可をえて出漁することになった。たもので道漁連小樽支所では小樽、余市、寿都、岩内の際揚げ港で全面的に共販を行う方針で他管内から係員の応援をえて準備をととのえてい

る。昨年管内出漁船は一隻当り平均九千貫(三百五十万円)の漁獲をあげ普通百五十万―二百万円といわれる必要経費を上回ったが、ことしは一隻二万貫(約

才相談を開催する。

▽十八日 泊電業所▽十九日 茅沼消防番屋▽二十三日 樽岸郵便局▽二十四日 狩太郵便局

訪ソ水産労働関係者と市で親

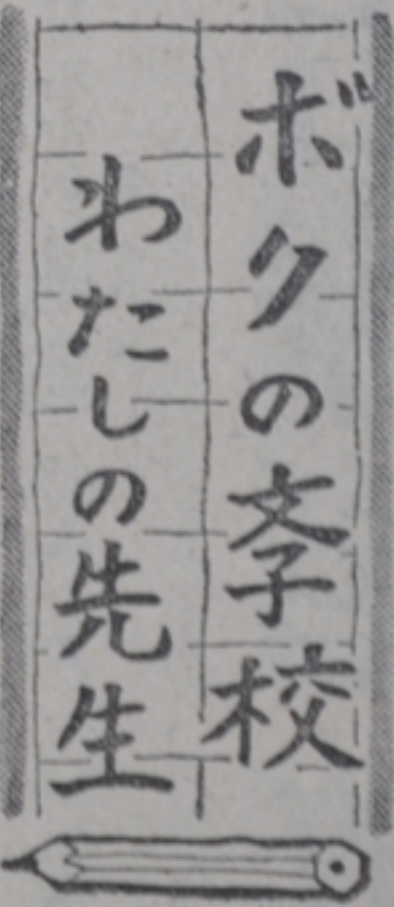
貿易再開前に視察回

捕獲漁船返して

来る二十五日羽田を出発、ソ連の漁業、労働問題を調査する訪ソ水産労働関係代表者の一行九名を迎えて市では十六日午後三時から市



緑小学校



○正面玄関の真上にかかけられた木の額には筆跡もたくましく「求道俱行」とあり、その古めかしさは本州などによくある藩校の伝統をくむ学校を思いつさせる。校長室の壁にも「日々清新」という書軸が掛けられて

育てるため教える情熱、つまり「行」の精神が要求されていし代って入ってきたのは緑小の教頭だった竹谷義孝先生をはじめ

とく先生、体育の神原幸子、音楽の北村トヨ先生、学大新卒の長谷川先生(数学)と、まず不足はあるまい。新谷校長は「科学面が手薄になったが、国語の先生が多く入ったこの機会に従来のかく上滑りだった国語をシックリできる」と語っている。あれば父の坊はどこ



○時は流れ、時代が移って、すがすがしく変化した。道を求めようとする「行」の精神はますます輝きだす。先生方も

○「こんどの異動で同校には約三分の一の先生の入替えがあった。転出したのはいずれも中

め国語では川倉三郎、北村誠一、斎藤次朗、宮本一男の各先生、算教に力を示す乃川裕昭先生、体操、視覚教育に重宝と

○「校下にはサラリーマンが多く経済状態もまちまちのため、

新谷校長

乃川先

なすも朝、学童にひく前の精神統一の「おん」の意味を教へようとする。先生方も

緊張感の人は多い。子どもの教育に熱心深く先生の動きにも

部長をつとめる藤尾ムツ先生、養護室としてベテランの小田中

へ行く



におうばかりの大地が顔を現したが、こ

ちわびていた北照高の八日から一せいにグラウ立ち、ランニング、軽テイングを開始した。

修学旅行中とあって本日はまだだが、バットは「ン」と快い音を発してぶ。すぐ隣りでは同校員がスクラム、パスワに余念なく、気合のこす黒く醜い姿をさら世の残雪にハネかえっはまだハダ寒いがどのみれ、スポーツ・シー深まって行く。

くこの三日間に限りスキーリフトを運転すた。市では一般の利

然記念物、その他のスライド作成、コンクールも予定されている。また体育では第十二回国体道予選、第九回道民体育大会、職場体育レクリエーション普及講習会が随時開催される。

小樽商大で入学式

小樽商科大学の入学式は十七日午前十時から学内講堂で行われた。ことしの入学者は商学部百六十一名、教職課程二十名、それに琉球からの留学生奥村幸信、美里武人両君を加え、全部で百八十三名だが、木部学長代理は「大学生活の意義を自覚し、社会の雑音に耳をかすことなく、健康に留意して充実した生活を送るよう。また青年紳士としての品位を保つことを希望する」と告辞、入学生を代表して札木光洋君が宣誓、式を閉じた。式には父兄約百名が参列、わが子の晴れの日を祝福していた。

の歓迎に感謝

訪日中国青年代表団の一行

つぎのとおり発表し、間通用パスは例年どお円、中学生三百円、小円で市内各運動具店でるが、期成会の会員券取替える。

【四月】▽二十八日球場幌スターズ【五月】一日三日北炭赤間、五日函館一日拓銀、十二日札鉄、々公社、十八日三井芦別日立製作所、二十五日住二十六日三菱美唄【六月】炭夕張、富士鉄釜石、八室蘭（このほか五、六月中関西両大学との対戦も予るが日取りは未定）

【新 入選手】扇谷哲夫（投手）川元昇（樽潮陵高外野手）市川和治（大樽手）滝沢利彦（瀬棚高、

事業計画と役員

小樽フォークダンス協小樽フォークダンス協る十三日、市議事堂で会を開き、本年度の事業よび役員をそれぞれつに決めた。

◇事業計画 ▽五月上旬ティー（二葉園）▽同中奉納パーティー（見晴台中旬ハイキング（朝里温